

## デンソー山岳部春山合宿B隊報告書

期間：2017.04.29～05.01

場所：後立山連峰 白馬岳

メンバー：町田（CL）方田（SL）

山口（装備）根芝（食料）

藤田（気象）天野（会計）



白馬大池のテシ場にて（A隊と一緒に）

第1日：4/29（土）曇りのち雷 行動＝2H55M

【行動記録】刈谷（05:00）－ 柵池ロープウェイ（10:00）－ 柵池自然園（11:20）－ 天狗原（12:40）－ 白馬乗鞍三角点（13:30）－ 白馬乗鞍山頂（13:45）－ 白馬大池テシ場（14:15）

特に渋滞に巻き込まれることもなく、順調に柵池ロープウェイ乗り場に到着した。共同装備の振り分け等、準備をしている間にポツポツと雨が降ってくる。予報では、午後から雷とのこと。不安が募る。

装備を整え、ロープウェイに向かう。チケット売りのスタッフから、登山届と引き換えでないとチケットは売れないと言われる。近年の遭難事故増加を受けての措置だろう。警察署に登山届を提出している旨を伝えると、ようやくチケットを渡してくれた。

ロープウェイとゴンドラを乗り継いで柵池自然園にたどり着く。遭対のスタッフから雪崩や事故についての説明を受け、ここからビーコンの電源を入れるよう指示された。どうやら、前日に起こった白馬大雪渓での雪崩に巻き込まれた被害者は、ビーコンを持っていなかったらしい。気を引き締めて、歩き出す。雪はあるが、つぼ足で十分。ざくざくと斜面を上がっていく。この斜面なら下山は尻セードができるな、と内心一人で盛り上がっていた。しかし、雲行きはどんどん怪しくなっていく。白馬乗鞍の山頂に差し掛かるころには、とうとう恐れていた雷が鳴りだした。よりもよって周囲より標高が高いところで！嘆いても仕方がないので、とにかく身を低くして先を急ぐ。後ろを歩いている大先輩の藤田さんが、雷鳴が響くたびに「2km くらい先かな…まだまだ大丈夫」と呟いてくれる。そんな中白馬乗鞍の三角点までたどり着き、次に山頂看板を目指したのだが、目印となるケルンがいつまでたっても見えてこない。ガスで視界が悪いとはいえ、さすがにおかしい。立ち止まって現在地を確認すると、見当違いの方向に進んでいたようだ。軌道を修正し、無事山頂看板までたどり着いた。まるまる太った真っ白な雷鳥が出迎えてくれたが、まだまだ雷は鳴り響いている。写真を撮りたい



雷音轟く中で！

のを我慢して先を急ぎ、ようやく白馬大池の小屋付近までたどり着いた時には心から安堵した。V8を張る頃には雷も去っていた。本日の夕飯はきりたんぼ鍋。明日の行動予定をメンバーで確認しつつ、鍋をつつき酒を飲み、早めに就寝した。明日が楽しみだ。

(記：根芝)

第2日 : 4/30 (日) 晴れ 行動時間=9H15M

【行動記録】起床 (3:30) — テン場 (4:55) — 船越の頭 (6:00) — 2610mアベソン装着 (6:20) — 小蓮華山 (7:16) — 三国境 (8:20-30) — 2810m撤退 (9:05) — 2719m手前 (9:40-50) — 小蓮華山 (10:10) テン場 (11:35-12:25) — 乗鞍岳 (12:55) 天狗原 (13:40) — 自然園駅 (14:10) — 梅池高原駅 (15:00)

3:30 起床、用足しでテントの外に出ると、風は強いが明けの星々が瞬いていた。各自で用意した朝食を済ませ、白馬岳登頂を目指し、白馬大池テン場を出発。すぐに、船越の頭への緩斜面の登りになるが、10~15mの西風が右前方から吹き付けてくる。船越の頭から小蓮華山まではアップダウンも少ない稜線なので見通しが良い。五竜岳まで縦走予定の重装備を背負ったAパーティが先行しているのが見える。軽量荷の我々は次第に追いつき先頭を交代する。小蓮華山登りの稜線は突風でバランスを崩さない様にピッケルを雪面に突き刺し進む。三国境まで強風と格闘して、休む場所を探すのが風よけになりそうな雪壁があったので暫し休憩して進退の状況判断をする。三国境から白馬岳まではコースタイム 50 分。白馬岳登頂予定 9:30 まで 90 分あるので余裕がある。三国境を過ぎると右前方からの強風 (瞬間 20m位) が吹き付けてきた。ふらつきながら前進する。高さ 50m程の斜面を乗り越すのに 30 分程かかった。台地上の 2810m地点で町田リーダーから撤退の命が下る。帰りのロープウェイの最終時間を考えると致し方無い。下山は背後から風を受けるので風の力を利用して楽をして余裕が出来た。正面 (西側) には戸隠、妙高、火打、焼山がみえた。天気は良いのに中国から黄砂が飛来している (ロープウェイ係員の話) 影響で穂高方面は景色が今一はっきりしない。



雪煙を上げる稜線

白馬大池テン場に戻り、休憩していると程なく、Aパーティも縦走を断念して戻ってきた。

テント撤収して、Aパーティと記念写真を撮った後、下山開始。

乗鞍岳からの標高差 200mの下りは腐りかけた雪面を尻セードで 10 分足らずで滑り下りた。その後も下り斜面は尻セードで 3 回程滑り、各自楽しみながら予定より早く自然園駅に着いた。

(記：藤田)

### 【所見】

#### 町田

気象状況は大方把握していた。その中で、如何に安全に有意義に白馬への雪稜を味わうか、少し考えていた。とは言え 29 日、雷音の中の白馬乗鞍通過は冷や冷やモノ。30 日、風は強いが気温が高い。多少吹かれても 15m/s (54km/h) 前後なら、ナイフエッジの稜線も無いし、無難に行ける所まで攻めるかの考えで行動した。小蓮華通過時、メンバーの中に強風への「体験的不安さ」を認めたが、少しチャレンジさせた。三国境を過ぎ、急登の雪面を抜けた 2850mポイントで時間的リスクより、風の強さ  $\approx$  20m/s (72km/h) に行動限界と判断した。SLやベテランの藤田さんとは逐次コミニしながら行動し、パーティーシップの統制もよい感じだった。メンバーは、少しリスキーな春の雪稜歩きを体験し、次のステップへの良い糧になったと思う。

白馬大池のBCを撤収し、温かい春の日差しの中を無邪気に尻セードを楽しみ、ロープウェイ・ゴンドラで高度を下げながら、ついさっきまでの白馬の暴風は何だったのだろうか?などと考えながら下る。愉快的な6名の仲間と過ごした2日が今年も又、良い思い出になった。

## 方田

事前の情報はあったものの、雷鳴や強風の中での歩行は、初の体験で、想像を超える怖いものであると痛感した。気温が高く、雨もなく、荷も軽い状況と、町田CLの的確な判断があったこそ、安全に下山できたと感じる。現場で感じ、適切な判断に触れ、自身ならどう判断するのかと問うたこの体験を、貴重な経験に変え、今後の登山活動に活かしていきたい。

最後に、この体験を共有したメンバ、新たな経験を与えてくれた山々に感謝したい。

## 山口

### 装備担当として

梶池のゴンドラ&ロープウェイで標高を稼げることもあり、参加者6名に対して余裕のあるV8テントを選択した。2日目の白馬岳アタックに向けてゆっくりと休息することができ良かったと思う。

また2日目の風が強かったため、町田CLの指示により出発前に張網をしっかりと張り直した。

就寝中大丈夫だったからと安心せず、出発前にテントをしっかりと安定させることは重要であると実感。今後も気を付けたい。

### 所見

春は山スキーに行くことが多かったが、雪上でのテント泊&アイゼン歩行の経験を積みたいという思いから、初の春合宿参加を決めました。残雪期というと安定した穏やかな天候での雪上登山を楽しむこと想像していましたが、1日目の雷の轟音が聞こえる中での歩行&しんと降る雪、2日目の稜線上での猛烈な風、と想像以上にハードな山行になり、残雪期と言えども状況によっては厳冬期と変わらないような山行になることを改めて実感しました。

白馬岳登頂はならず残念でしたが、もう少し経験を積んでまたチャレンジしたいと思います。また、山岳部メンバーと一緒に過ごせた3日間は非常に楽しく良い思い出になりました。ありがとうございました。

## 根芝

### 食糧担当として

1 日目夕食：きりたんぼ鍋

2 日目朝食：各自で準備

・1日目の夕食は、男性が多いため食べ切れるだろうと考えていたが、意外と余ってしまった。夕飯前に宴会を始めるため、おつまみを食べることを考えると夕飯は少な目に用意すべきと思った。

・2日目の朝食は、お湯は共同で沸かしたが、食事自体は各自で準備してもらった。朝は体調によって食欲が左右されやすいため、自分が食べたいものが一番と思っての判断だった。事前に、時間をかけずに準備できるものを用意することをアナウンスしておいたため、出発予定時刻に遅れることもなく、よかったと思う。



### 所見

白馬乗鞍に差し掛かったあたりで雷に見舞われた際には生きた心地がしなかったが、町田リーダーを始め、ベテランの方々の落ち着きっぷりに助けられた。また、「この程度までは大丈夫」と判断する方法等を教えて頂き、大変勉強になった。私もこれから後輩を連れて登ることが多くなると思うが、慌てず騒がず、冷静な判断が下せるよう精進します。

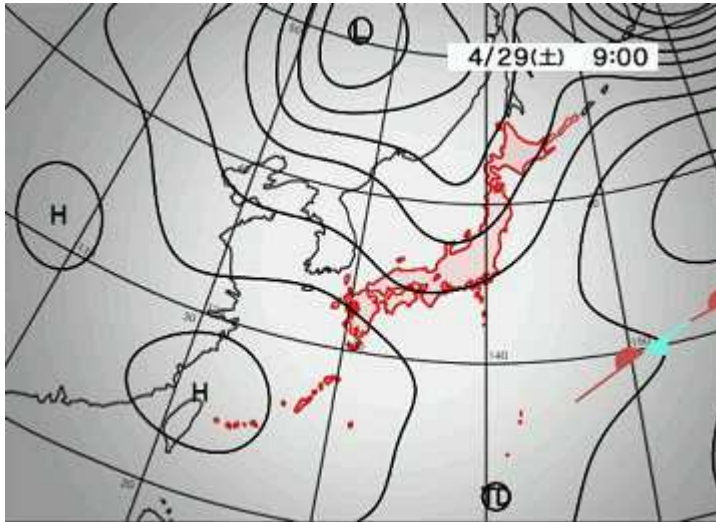
## 藤田

乗鞍岳での雷音と小蓮華山稜線での強風・・・厳しい春山。下山は尻セードで一気に下った・・・楽しい春山。一度で二度おいしい春合宿でした。日に焼けた鼻の頭をこすりながら余韻に浸ってます。

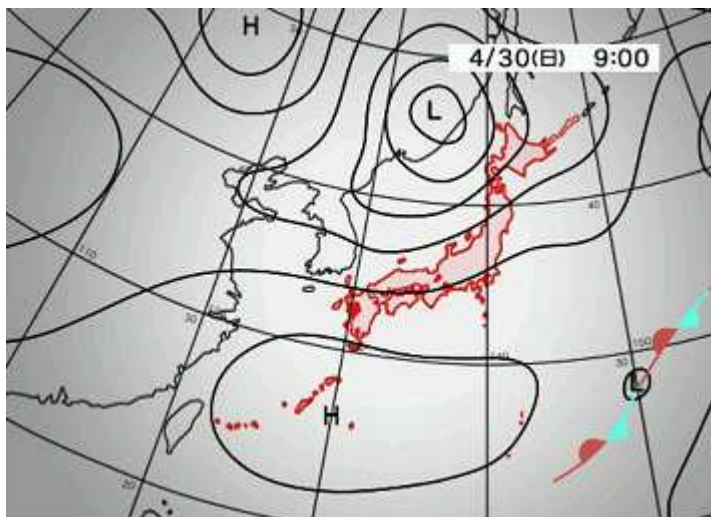
## 天野

小蓮華岳に登頂すると、風の強さは半端なく弱音を吐いた。「白馬岳まで行ける気がしない」リーダーの叱咤激励を受け頑張って歩いた。、三国境を少し過ぎたところで「撤退」の合図があり、正直ほっとした。後で思うと良い経験になった。(普段の登山ではできない) テント内でのくつろぎと下山時の尻セードはとても楽しかった。メンバーに感謝です。

## 気象：藤田



日本海から気圧の谷が接近する影響で天候急変する。白馬乗鞍岳周辺では雪あられが降り、雷雲が発生し雷が落ちた



南高北低型となり、概ね晴れるが、高気圧の縁に入るため午前中は西風が強い。  
小蓮華山の稜線では瞬間 20m程の西風が吹いた。

会計：天野

## 収入

項目	合計	単価	人数
会費	96,000	16,000	6

## 支出

項目	合計	単価	数量
高速代(行)	7,740	3,870	2
高速代(帰)	11,060	5,530	2
ガソリン代	17,100	8,550	2
車消耗費	6,300	3,150	2
食材費	4,800	4,800	1
ゴンドラ	19,800	3,300	6
白馬村宿泊	28,800	4,800	6
電池	400	100	4
合計	96,000		